

抄 録

結核専門雑誌

Zeitschrift für Tuberkulose Band 71, Heft 1—2 1934

結核症診断ハ特殊組織反應ト結び付ケラルヤ?

E. Löwenstein: Ist die Diagnose Tuberkulose an die Spezifische Gewebsreaktion gefunden?

一部ノ病理解剖學者ハ定型の結核性組織反應ガ存在シナイト、結核症ト云フ診断ヲ下サナイ。又臨牀家ハ結核結節ガ無ケレバ、結核症ヲ認メナイ。然シ病理學者ハ直接觀察シテ居ル間ニ、結核結節ナキ結核症ノ存在スル事ヲ知ツテル。

若シ結核症ナル概念ヲ純組織學的ニ解釋セズ、病因的ニ考フルナラバ、結核菌ノ作用ニ因ツテ起ルトコロノ總テノモノハ、結核症ト名付ケネバナラス事ハ自明ノ理デアアル。例ヘバ心嚢炎ニ就テ觀ルニ、初期ノ場合ハ純滲出性、纖維素性、白血球性デアツテ、極メテ輕度ノ結核性組織造構ヲモ認メナイ。然シ結核菌ハ非常ニ多ク證明サレル。此初期ヲ結核症以外ノ名稱ヲ以テスルコトハ出來ナイ。而モ晩期ニ於テ甚ダ屢々定型の結核造構ヲ示サナイ事ガアル。

結核性造構ハ結核菌ニヨツテ生ズル組織變化ノ圈内ニ於ケルーツノ隨意的相ニ過ギナイ。組織變化自身ハ決シテ歸一的ノ像ヲ作ラナイテ、菌株ノ毒力、感染ノ分量、免疫ノ度、侵入門戶、臟器抵抗及ビ檢索ノ時期ニ關係スルモノデアアル。結核結節ナキ結核症型ガアル事ヲ知ラネバナラス。

結核菌ハ甚ダ屢々管ヲ侵シ、容易ニ内膜ニ寄生スルモノデアアル。淋巴管及ビ血管ノ内膜結核結節ハ、血液感染ノ源泉トナルコトガ頻繁デアアル。結核菌ハ感染後、甚ダ速カニ血液中ニ進入スル。菌血症ハ「レントゲン」學的ニ結核症ガ未ダ證明サレザル時ニ、既ニ培養ニヨツテ證明サレ得ル。此感染初期ノ症候ハ體温上昇ト疲勞デアアル。

感染後ノ初期ニ於テハ、「ツベルクリン」反應ハ尙陰性

デアアル。「ツベルクリン」反應ハ、結核菌ノ大量ガ、血管中ヲ循環シテル間ハ陰性デアアル事ガ普通デアアル。結核菌ガ血流中カラ消失スルト、「ツベルクリン」ニ對スル反應力ガ發生シテ來ル。

「アレルギー」ハ結核結節形成後ニ初メテ現レル。夫故ニ結核結節形成ハ、「アレルギー」ノ解剖的基礎デアアル様ニ思ハル。

斯クノ如クナレバ、結核症診断ハ組織反應ニ據ルニ非ズシテ、結核菌ノ存在ニ據ラネバナラスト。

(東京市療、中田抄)

腎結核症ニ於ケル菌血症

E. Katzin: Über Bazillämie bei Nierentuberkulose.

尿カラノ培養ハ、Löwensteinノ方法ニ則ツテ、嚴密ニ15—25%ノ硫酸ヲ施行セネバナラス。稀薄ナ濃度デアハ、同時ニ盛ニ繁殖スル他ノ細菌ニヨツテ、屢々成績ガ當ニナラナクナル。

著者ハ188例ニ就テ血液培養ヲ行ヒ、其内44例ガ陽性ヲ得タ。此44例中23例ハ、臨牀的ニモ診断ガ確定サレテ居タ。他ノ21例ハ診断ガ不確定テ疑問視サレテ居タモノデアアル

勿論血液中ノ結核菌存在ハ、腎結核症ノ存在ヲ必ズシモ證明スルモノテナク、他ノ臟器ノ病竈ニ因ルコトガアル。ソコテ尿ヲ反復シテ検査シタトコロ、此21例中10例ハ尿ニ於テモ陽性デアツタ。

注目スベキハ、手術ニヨツテ確實ニ腎結核症ト診断サレタ23例ニ於テ、只15例丈ガ尿ニ結核菌ガ證明サレタ。然ルニ1回ノ培養検査デ、陰性デアツタノハ8例デアアル。

91例ニ就テ血液ト尿トヲ同時ニ検査シタトコロ、21例ハ血液中ニノミ、15例ハ尿中ニノミ、9例ハ血液ト尿トニ培養テ陽性デアツタ。(東京市療、中田抄)

小兒期ノ結節性潮紅斑ニ於ケル結核菌血症ニ就テ

F. Naranjo: Über-Tuberkelbazillämie bei Erythema nodosum im Kindesalter.

結節性潮紅斑ハ、外因性感染後凡ソ 5—6 週テ現レル。結核菌ハ培養テ検査ガ早ケレバ早イ程、頻繁ニ證明サレル。菌血症ハ長イ間繼續スルコトガアル。例ヘバ 4 週間以上モ續イタ例ガアル。結節性潮紅斑ノ場合ハ、血液ヲ屢、且ツ長イ期間ヲ隔イテ培養的ニ検査スルコトガ絶對ニ必要テアル。未ダ「ツベルクリン」反應ガ陰性テアル頃ニモ、菌血症ハ既ニ存在スル。「ツベルクリン」反應ハ、發疹ガ現レテカラ數日後ニ、初メテ陽性トナル。結節性潮紅斑ノ時ハ「ツベルクリン」反應ト血液検査トヲ每週繰リ返スベキテアル。

(東京市療、中田抄)

淋巴肉芽腫症ニ於ケル血液中ノ結核菌所見ニ就テ

E. Jubés: Über Tuberkelbazillenbefunde im Blut bei Lymphogranulomatose (Paltauf-Sternberg)

27 例ノ淋巴肉芽腫ヲ検索シ、其内 11 例ニ培養ニヨリ血液中ノ結核菌ヲ證明シタ。此 11 例中 6 例ハ鳥結核症ノ疑ガアツタ。

最近組織學的ニ確實ナル淋巴肉芽腫ノ 1 例ヲ検索シ、非常ニ興味アル血液所見ヲ得タ。即チ滅菌蒸溜水テ 2 回洗滌シ、完全ニ「ヘモグロビン」ヲ無クシタ血液沈渣ニ、Ziel-Neelsen テ容易ニ證明サレル結核菌ヲ非常ニ多數ニ見出シタ。

結核菌ハ單獨乃至小ナル集塊テナク、大キナ血管ヲ滿スホドノ大集塊ヲナシ、非常ニ多數テ赤血球ノ數ヨリモ多イ。結核菌自身ハ、ドノ型ニ屬スルカ區別スルコトガ出來ナイガ、此夥多ノ結核菌出現ハ、鳥型結核菌ニヨル感染ニ恰當スル。

Löwenstein ハ熱ニヨツテ殺シタ結核菌ヲ浮游液ヲ治療ニ推擧シタ。淋巴腺腫脹ハ之ニヨツテ縮小シ、長イ發熱期モ無クナリ、一般狀態モ確ニ良好ニナツタ。此療法モ「レントゲン」療法ト同様ニ、ドノ道死ヲ防グ事ハ出來ナイガ、然シ患者ハ常ニ診斷確定後 12 年ハ生存シ得タ。

(東京市療、中田抄)

血液ヨリノ結核菌培養及ビ血液沈渣ノ直接染色

E. Jubés: Tuberkelbazillenkultur aus dem Blute und direkte Färbung des Blutsedimentes (Untersuchungen an 1280 Fällen)

Löwenstein ノ血液培養ヲ行フニ當リ、血液採集ノ技術ガ特ニ重要テアル。即チ極ク僅カノ凝固ヲ避ケネバナラス。Löwenstein ノ經驗ニヨルト、此凝固物ノ中ニ菌ガ含有サレテキル事ガ非常ニ頻繁ニアル。然シ凝固物ハ流狀血液ト全ク別ノ仕方テ取扱ハネバナラス。即チ凝固物ヲ新シク蒸氣消毒シタ器具ヲ以テ小片ヲ切り、滅菌乳鉢ノ中テ、小塊ガ見ヘナクナル迄ニ碎磨スル。此液ヲ滅菌蒸溜水テ溶血シ、「ヘモグロビン」無シノ沈渣ニ、15% 硫酸ヲ等量入レ、5 分間振盪スル。直チニ滅菌蒸溜水ヲ加ヘ、遠心沈澱シ、洗滌液ガ「ラクムス」ニ對シ酸性反應ヲ呈シナイ迄蒸溜水テ洗フ。全沈渣ヲ培養基ニ附ケナケレバナラス。少クトモ各例ニ 3 個ノ培養基ヲ用ヒル。植繼ギニ白金耳ヲ用ヒテハナラス。常ニ無菌ノ「ガラス」棒テ行フ。又 5 ヶ月間觀察セネバナラス。

培養法ハ血液沈渣ノ Ziel-Neelsen 法ニヨル直接染色法ヨリハ遙ニ優秀テアル。1280 例中沈渣染色ニヨルト 53 例、培養ニヨルト 187 例陽性デアツタ。

53 例ノ染色陽性例中 34 例ハ培養テモ陽性デアツタガ、培養陽性 153 例ハ沈渣染色法テハ陰性デアツタ。

(東京市療、中田抄)

牛型菌培養ニ關スル補遺

L. Bénesi und K. Domma: Beitrag zur Kultur des Typus bovinus.

著者ハ牛結核症材料ヨリ純培養ヲ得ントシテ、獨特ノ實驗ヲ行ツタ。材料ハ屠畜場ヨリ得タル淋巴腺、脾ニハ肝、脾及ビ眞珠結節テアル。

淋巴腺ハ全體ヲ裁斷セズ、淋巴腺ノ内容ダケヲ乳鉢ノ中テ、極ク少量ノ食鹽水ヲ加ヘテ碎磨シ、25% ノ硫酸ヲ同量加ヘテ、5 分間放置シテ置ク。20% ノ苛性曹達ヲ 2 坩加ヘ、更ニ水ヲ加ヘ、上澄ヲ採リ、無菌蒸溜水テ 2 回洗フ。沈渣ヲ無菌「ガラス」棒ニテ培養基ニ附ケル。培養基ハ通常ノ通りテアル。

51 例中 26 例純培養スルコトガ出來タ。「グリセリン」加及ビ「グリセリン」無シノ培養基何レニ於テモ繁殖シタ。

以上ノ成績カラシテ Löwenstein ノ提唱シタ 15% 濃度ヲ 20—25% ニ上ゲルコトガ出來タ。25% 硫酸テ處理サレタ結核菌カラハ、既ニ 3 週後繁茂セル純培養ヲ得タガ、純培養カラ更ニ植繼ギシタ硫發無處理ノ結核菌カラハ、25% 硫酸テ處理サレタ場合ノ如キ繁殖が見ラレナカツタ。此事實カラシテ酸處理ハ繁殖ヲ

促スモノト考ヘネバナラス。

夫故ニ硫酸稀薄濃度(5—10%)ヲ使用スル Löwenstein 變法ハ、改良テハ無ク、改惡ト云ハネバナラス。強感染材料ノ檢索ニハ 25% 濃度ガ良好デアアル。

種々ノ場所カラノ膿特ニ骨膿カラ、染色ニヨツテ證明サレ得ナイ結核菌ガ、上記ノ方法ヲ頻繁ニ證明且ツ培養サレ得ル事ガ解ツタ。(東京市療、中田抄)

結核菌血症ニ關スル知見補遺

Otto Kren: Zur weiteren Kenntnis der Tuberkulobazillämie

皮膚結核症ノ大多數ハ、外界ヨリ得タル感染テナク、個體ノ何レカノ部分ニ感染竈ヲ有スル既存一般結核症ノ微候デアアルコトハ、現今ハ疑ヲ入レル餘地ナキ事實テ、斯ク皮膚感染ハ血道ヲ介シテ起ル故ニ、菌血症ヲ研究スルニハ、皮膚結核症ガ特ニ適當ト思ハル。

著者ハ 1930—1934 年ノ 4 年間眞正狼瘡、硬結性潮紅斑及ビ紅斑狼瘡ノ三種ニ就テ血液培養ヲ行ツタ。最も多イ皮膚結核症ナル眞性狼瘡及ビ硬結性潮紅斑ノ場合ハ、血液培養テ 50% ガ陽性デアツタ。病原論ノ尙爭點トナツテ居ル紅斑狼瘡テハ 81.8% ガ培養的ニ陽性デアツタ。

菌血症ハ何時テモ同様トハ行カナイ。菌血症ハ間歇推進ノ時ニ起ルノテ、培養成績ハ採血ガ幸ニ丁度其時ニ當ルカ當ラスカニ存スル。今日試驗管ニ夥多ノ集落ヲ見タカト思フト、次ニハ一集落ヲ見ルカ又ハ全ク見ル事ノ出來ナイ事ガアル。

Löwenstein ガ得タル良キ成績ホドニ、多クノ追試者ガ培養的ニ結核菌血症ヲ證明シ得ナイ事ハ、血液培養ハ採血ノ時期ニ關係スルカラデアアル。發疹ヲ起ス感染ニ就テ、血液培養ハ發疹ノ出現後ニハ殆ンド常ニ陰性デアアル。然ルニ發疹出現前ノ短時間ニ偶然行ツタ血液培養ガ、血中ノ病原菌ヲ容易ニ證明スル事が可能デアアル場合ガアル。

Löwenstein ガ得タル如キ良キ血液培養成績ヲ得ンガタメニハ、Löwenstein ノ技術的要項ヲ顧慮スルノミナラズ、特ニ臨牀的ニ病竈撒布ノ微候ガアル場合ニ培養スルトカ、結核性皮膚現象ノ患者ヲ用ヒテ行フ事が必要デアアル。斯ル場合テモ、1 回テナク、長短ノ期間ヲ隔イテ度々行フ事が必要デアアル。先ヅ Löwenstein ノ培養成績ヲ得ル事ニ成功セバナラス。解釋ハ其後ノ仕事デアアル。(東京市療、中田抄)

Neumann ノ諸種結核症型ニ於ケル Löwenstein 結

核菌血症

Walter Ekhart: Tuberkelbazillämie nach Löwenstein bei den verschiedenen Tuberkuloseformen nach Neumann.

血液培養ノ陽性成績ハ、男性 84 例中 18 例陽性(21.4%)、女性 70 例中 13 例陽性(18.5%)テ、合計 154 例中 31 例陽性(20.1%)デアアル。全血液培養 176 中 32 ガ陽性(18.1%)デアアル。此陽性成績ハ肺結核症ノ輕症、中等症、重症ヲ包含シテキル。臨牀上及ビ「レントゲン」學的ニ血行性或ハ血行性播種ヲ思ハセル型テハ肺結核症ノ他ノ型ヨリモ陽性率ガ多イ。特ニ興味アルハ、氣管枝性喘息ノ 2 例ニ陽性所見ヲ得タコトデアアル。(東京市療、中田抄)

手術的處置(人工氣胸、横隔膜神經捻除術、胸廓燒灼)後ニ於ケル血液中ノ結核菌證明ニ就テ

J. Voncken: Über den Tuberkelbazillennachweis im Blut im Anschluss an operative Eingriffe (Pneumothorax, Phrenikusexairrese, Thorakokaustik)

血行性間歇推進(Schub)ノ微候ガ解レバ、何時細菌ガ血中ニ移行シタカガ解ル。結核菌ガ間歇的ニ血行中ニ現レ、從テ繼續的ニハ證明サレナイト云フ假定ハ一般ニ認メラレテキル。然シ新シキ間歇推進ノ場合、發熱期間ニ於ケル血液培養ハ、多クハ陰性ノ結果ヲ擧ゲテ居ル。ソコテ何カ他ノ方法テ細菌ガ血行中ニ移動スル時ヲ詳シク知ルニハ、肺臟ニ手術的處置ヲ行ヒ而ル後、血液ヲ採リ培養基ニ植ヘル事ニ依ツテ達シ得ラレル。虚脱ノ場合ノ解剖學的變位ニヨツテ、結核性組織ノ内ニ血管切斷ガ起リ、菌含有病竈ト血行トノ間ニ聯絡ガ出來ル。或ハ菌ガ淋巴道ニ侵入シ、更ニ之ヲ越ヘテ血液循環系統ニ入ル。

虚脱療法後ノ菌血症ノ證明ハ、血液培養ノ成績ヲ良クスル事が出來ヤウ。又他方結核症ノ本態及ビ虚脱療法中ノ出來事ニ關スル知識ヲ増補スル事が出來ヤウ。然シ虚脱療法後血液培養陽性ナル場合ハ、氣胸ヲ治療的ニ用ヒルニ當ツテ注意ヲ促サバナラス事ニナラウ。

著者ハ以上ノ考ヘカラシテ、35 人ノ患者ニ於テ手術的處置ニ續イテ、Löwenstein 方法ニ則ツテ培養ヲ行ツタトコロ、6 回ニ陽性デアツタ。即チ横隔膜神經捻除術 12 例中 1 回、胸廓燒灼 9 例ノ内 5 回ガ陽性デアリ、胸廓鏡檢査 3 例ト人工氣胸 14 例テハ、皆陰性デアツタ。從テ手術的處置後ニ菌血症ノ生ズル可能性ガ考

ヘラル。

(東京市療、中田抄)

E. Küster 及ビ S. Olbrich ノ業績ニ對スル附言
E. Löwenstein: Bemerkungen zu der Arbeit von
E. Küster und S. Olbrich (Band 70, Heft 3)

Löwenstein ノ方法ガ血液ヨリ結核菌ヲ培養スルニ適當ナル方法デアル事ハ、多クノ業績ニヨツテ明デアアル。Küster 及ビ Olbrich テサヘ、屍體カラ 62%、患者ノ血液カラ 1.3% ノ培養成績ヲ得タ。其他ノ人々ハ屍體血液及ビ生血液カラ、モツト良イ陽性率ヲ擧ゲテ居ル。要スルニ各人ノ成績ニ量的ノ差異ガアルノミデアアル。Küster 及ビ Olbrich ノ模範的實驗ハ、Löwenstein ノ培養方法ガ塗抹標本ヨリハ、千倍モ優秀デアル事ヲ示シテキル。

菌血症ニ關スル成績ノ臨牀的意義ニ就テハ、今日未ダ顧ミラレテナイ。尙今後數年間ニ互リ、盛ニ此仕事ヲセネバナラス状態デアアル。ドノ道我々ハ自然科學者トシテ事實カラ出發セネバナラス。事實ノミガ我々ヲ進歩ニ導クカラデアアル。(東京市療、中田抄)

**E. Küster 及ビ S. Olbrich ノ業績ニ對スル補遺
及ビ説明**

Carl Reitter: Ergänzungen zu der Arbeit von E.
Küster und S. Olbrich (Band 70, Heft 3)

Löwenstein ガ 1930 年ニ培養法ヲ完成シ、著者ガ其仕事ニ加ツタ時ニ、Löwenstein 及ビ著者ハ多發關節炎ノ場合ニ、菌血症ノ證明サレル時期ガナケレバナラナイト考ヘタ。病機ガ全ク新シク且ツ蔓延シテ居ルトキ、即チ強度ノ關節腫脹、著シキ發熱及ビ「サリチール」劑ガ入ツテ無イ場合ニ、菌血症ガ最モ早く證明サレルデアラウト考ヘタ。更ニ著者等ハ採血ニ適當ナ時期ハ、熱ガ再發シタ日、女性テハ月經ノ直前及ビ直後、次ニ種々ノ合併症ガ現レタ時デアル事ヲ知ツタ。

斯クノ如ク細菌血ノ現レル時期ガアルノニ、細菌學者、病理解剖學者及ビ臨牀家ガ、多發關節炎ノ診斷ガ決定スルト、單ニ 1 回程度ノ採血ヲナシ、且ツ正シキ細菌學的手法ヲ行ヘバ、直チニ結核菌ヲ培養的ニ證明シ得ルト考ヘテ居ルノハ不可解デアアル。

Küster-Olbrich ハ 450 例ニ就テ 530 回血液検査シテル。即チ全例ノ 1/5 ガ 2 回テ、他ノ 4/5 ハ只 1 回シカ検査シテナイ。著者及ビ Löwenstein ノ數ハ 1932 年ニハ 70 例ノ急性關節雙麻質斯ニ就テ 435 回ノ血液検査シテル。即チ平均 1 例ニ對シ 6 回以上デアアル。

實際ニ於テハ 1 例ニ就テ 2 回カラ 22 回マテモ行ツテル。22 回ノ例テハ 6 回モ培養陽性デアツタ。

細菌學的方法ノ偏頗ナル評價ハ臨牀ノ知識ノ缺ケテ居ル事カラ生ズル。從來ノ疾病検査方法ヲ以テシテハ、結核症ニ感染シテル者ノミガ、急性關節雙麻質斯ニ罹ルコトヲ證明スル爲メニハ大努力ヲ要スル。結核病竈ノ存在ハ缺ク可ラザル必要デアアル。然シ尙有毒ナル結核菌ヲ含有セル病竈ヲ見出スコトハ、臨牀的ニハ非常ニ困難デアアルノミナラズ、病理解剖學者ニトツテモ容易デハナイ。

然シ現今テハ解剖學者モ Löwenstein ノ方法ニヨツテ、屍體臟器カラ結核菌ヲ培養スル事ガ出來ル。雙麻質斯性心内膜炎、心臟病及ビ多發關節炎ノ解剖ニ際シテハ、結核菌ノ培養及ビ結核病竈ヲ根氣ヨク探究セナケレバ不完全デアアル。

Küster-Olbrich ハ血液中ニ結核菌ノ證明サレル例ヲ偶然ナル所見ト解釋シテ満足シテル。今迄ニ隠レテ居タ原因ヲ見出スコトハ科學ノ使命デアアル。肉眼的ニ結核症ノ證明サレナカツタ屍體ノ臟器カラ、培養ニヨツテ結核菌ガ現レタ場合、之ヲ偶然所見ト云フコトハ惡シキ空ナル言葉デアアル。

Küster-Olbrich ハ陰性所見ニ基イテ鮮明ナル批評及ビ廣汎ナル結論ヲ下シタ。決シテカアル根據ニ依ルモノデハナイ。尙良キ細菌學的手法ト臨牀的知識ヲ必要トスル。

(東京市療、中田抄)

C. Reitter ノ補遺及ビ説明ニ對シ、竝ニ我々ノ業績ニ就テノ E. Löwenstein ノ附言ニ對スル結語

E. Küster und S. Olbrich: Schlussbemerkungen zu den Ergänzungen und Erläuterungen C. Reitters und den Bemerkungen E. Löwensteins zu unserer Arbeit (Bd. 70, Heft 3)

Löwenstein ガ答辯ノ中ニ擧ゲラレタル諸氏ガ追試シテ、5%ノ陽性成績ヲ得ラレタ事ニ就テ論争シナイ。Löwenstein ノ以前ノ報告ニヨルト、同氏ハ 50%ノ陽性成績ヲ得テ居ル。ソコテ Löwenstein ノ全追試者ハ Löwenstein ノ成績ヲ完全ニ確證シ得ナカツタト結論シ得ル。

特ニ雙麻質斯性多發關節炎ニ於ケル臨牀家ト細菌學者トノ協同作業ニ關スル Reitter ノ解釋ニハ反對デアアル。ソレハ Löwenstein 自身が先キノ發表ニ於テ、多發關節炎ハ慢性菌血症ニ關係シテルカラシテ、採血ノ時期ハ問題アナイト反復シテ強張シテル。又 Ham-

burg / Schottmüller / 教室ノ如キ臨牀ト細菌學トガ模範的ニ統一サレテル所ニ於テ、多發關節炎 20 例ニ Löwenstein / 追試ヲ行ツタトコロ、全部陰性デアツタコト等カラシテ Reitter / 解釋ニ合意出來ナイ。
又 Löwenstein ハ遠心機沈澱ノ廻轉數が高スギルト云フテルガ、生體血液ノ場合ト同様ノ廻轉數テ、動物實驗、死體血液ニ就テ行ツタ時ハ非常ニ良イ成績ヲ得タ。又 1200 ノ少廻轉數テ行ツタトコロ 3500 廻轉數ヨリモ良イ成績ガ得ラレナカツタ。遠心機ニヨル沈澱ノ粘著力ハ、第一ニ其材料自身ニヨルモノテ廻轉數ニハ殆ンド關係シナイ。
是等ノ見解ヲ變ヘシムル新事實ヲ得ナケレバ、著者等ノ結論ハ今後モ正シイト認メナケレバナラスト。

(東京市療、中田抄)

白鼠ノ結核症ニ就テ、第一報告：菌型區別ノ實驗
W. Stempel: über die Tuberkulose der weissen Maus 1 Mitteilung: Versuche zur Typendifferenzierung.

白鼠ガ結核菌型ノ區別ニ適當スルカドーカラ、深山ノ人型及ビ牛型菌ニ就テ實驗シテ試ミタ。培養人型菌ノ 1 疋ヲ、白鼠ノ靜脈内ニ接種シタトコロ結核症ヲ惹起シ、其 96% ガ 2 ヶ月以内ニ死ンテ終ツタ、古イ人型菌株ハ靜脈内注射ニ於テモ、多少ノ差ハアレ、無毒性デアル。牛型結核菌ハ上記ノ菌量テハ白鼠ヲ 2 ヶ月以内ニ殺ス。新シク分離シタ牛型菌ヲ以テ、皮内注射ヲ行ツタ場合デモ、白鼠ハ稀ニ且ツ輕ク罹患スル。夫故ニ白鼠ハ結核菌ノ菌型鑑別ニハ不適當デアル。

(東京市療、中田抄)

結核外専門雜誌

結核死菌ニ對スル海猿腹膜内ノ細胞學的反應及
ビ同死菌ニヨリ過敏性ニサレタル海猿ノ結核再
感染ニ對スル腹膜反應

A. Gaiginsky, R. Laporte: Réactions Cytologiques du péritoine aux bacilles tuberculeux Morts et réactions péritoréales de surinfection des Cobayes sensibilisés par des germes tués, (C. R. de Soc. de Biologie. No. 12. Tome CXVIII 1935, p. 1164.)

著者ハ 120°C ノ「アウトクラブ」ニヨリ死滅セシメタル Valtée 牛型菌ヲ腹膜ニ移植シ 55 日間觀察シ腹腔滲出液ヲ血液ノ白血球分類ニ於ケルガ如ク Maygiemsa ニヨリ染色シテ檢セリ、即チ最初多核白血球減少シ次テ單核白血球急激ニ増加シ更ニ此ノモノハ減少シ同時ニ淋巴球ガ急激ニ増加スルヲ知レリ。更ニ著者ハ牛型結核死菌ヲ皮下ニ注射シ過敏性ニナシタルモノニ更ニ同種ノ生菌ヲ腹腔内ニ注射セリ、然ルニ最初ハ單核及ビ淋巴球ハ動搖ヲ見タルモ淋巴球ハ 80% ニ上昇セルヲ知レリ。

(京都府醫大、飯塚内科、柳下誠抄)

Koch 菌「アセトンエキス」ノ注射ニヨル海猿菌血症ノ研究

L. Négre et J. Bretey: Etude de la bacillémie du cobaye par la Méthode des injections d'extrait acet-

onique de bacilles de Koch (C. R. de Soc. de Biol. No. 12. Tome CXVIII. 1935 p. 1182.)

著者ハ海猿ニ人結核菌ヲ皮下注射シ、間隔ヲオキ頸動脈穿刺ニヨリ採血シ直チニ他ノ 5 匹ノ海猿皮下ニ注射セリ、内 3 匹ハ約 2 ヶ月間 2 週間ノ間隔ヲオキ、Koch 菌ノ「アセトン、エキス」ヲ皮下ニ注射セリ、單ニ血液ノミヲ移植シ Koch 菌ノ「アセトン、エキス」ヲ注射セザル海猿ニ比シ血液及ビ Koch 菌ノ「アセトン、エキス」ヲ注射セル海猿ノ結核感染率及ビソノ菌證明率ハ好良ナリキ。

(京都府醫大、飯塚内科、柳下誠抄)

人結核菌 S 種ノ猿類 (Macacus Cynomolgus et Cynocéphale) ニ於ケル毒力ノ研究

P.F. Armand-Delille: Etude de la virulence Chez le singe (Macacus Cynomolgus et cynocéphale) d'une souche S. de bacille tuberculeux humain. (C. R. de Soc. de Biol. No. 12. Tome CXVIII. 1935. p. 1194.)

著者ハ Löwenstein 法ニヨリ結核兒童ノ血中ヨリ S 種ヲ分離シ實驗ニ供セリ、若キ Cynocéphale ノ肺内ニ最小量ノ菌ヲ移植シ 4 ヶ月目ニ剖見スルニ同所及ビ淋巴腺ノ反應ヲ呈セズ。靜脈内注射ニヨリ移植ヲナセルモ何等反應ヲ呈セザリキ、又 Cynomolgus ニ可ナリノ大量ヲ移植セルモ何等反應ヲ呈セザリキ。

雌ノ *Cynomolgus* = 10mgr. ノ菌ヲ皮下ニ注射セルニ 15 日目は於テハ「レンズ」大ノ腫大ヲ見、腋下腺ノ腫大ヲ證セリ。6 週後ニハコノ「レンズ」大ノ腫物ハ波動ヲ呈スル小膿瘍ヲ作り 穿刺セルニ少量ノ乾酪様物質ヲ見、Löwenstein 法ニヨリ培養ヲナセルニ S 種ノ「コロニー」ヲ見ル該膿瘍ハ 穿刺ニヨリ次第ニ全治セリ。

(京都府醫大、飯塚内科、柳下誠抄)

「ツベルクリン、アレルギー」ト Schwartzman ノ現象

Paul Bordet : Allergie à la tuberculine et phénomène de Shwartzman. (C. R. de Soc. de Biol. No. 12. T. CXVIII. 1935. p. 1255)

新ラシキ家兎ニ「ツベルクリン」ノ皮内注射ヲナスモ何等局所反應ハ認めラレズ、カ、ル家兎ニ Schwartzman ノ反應ヲ分離サスニ用ヒラル、大腸菌毒ノ一定量(1 cc)ヲ靜脈内ニ注射シ、24 時間後「ツベルクリン」ノ注射ヲナスモ局所ニ何等反應ヲ呈セズ、結核家兎ニアリテハ「ツベルクリン」ノ皮内注射ニヨリ局所ニ出血ヲ伴ハザルモ浮腫反應ヲ呈ス、而モ 24 時間後ニ於テ此ノ浮腫ハ肥厚ヲ呈スルナリ、カ、ル結核家兎ノ「ツベルクリン」反應タル皮膚ノ肥厚ヲ見タルモノニ大腸菌毒ノ靜脈内注射ヲ行フトキハ凡ソ 3 時間後ニ Schwartzman ノ反應ニ同一ナル局所ノ劇シキ出血反應ヲ見ルナリ、該部ハ遂ニ壞疽ニ陥リ結痂形成ヲ營ムニ至ル、此ノ出血性反應ハ恐ラクハ Schwartzman ノ現象因子ト同一性ナリト論セラル、ナラン乎ト。

(京都府醫大、飯塚内科、柳下誠抄)

「レゾルシン」ノ血清反應ノ決定論

Paul Bordet : Déterminisme de la séro-réaction à la résorcine. (C. R. Soc. de Biol. No. 12. T. CXVIII 1935. p. 1256.)

Vernes ノ反應ハ臨牀上興味アルモ結核ノミニ特異ニアラズシテ、「チフス」熱ノ經過中又瘧疾患ニ於テモ屢々陽性ヲ呈スルモノナリ、大腸菌培養ノ濾液ヲ家兎ノ皮内ニ注射スル時ハ該家兎ノ血清ハ「レゾルシン」反應ヲ著明ニ惹起スルモノナリ。サレド正常家兎又ハ肉汁ヲ注射セル家兎ノ血清ハ「レゾルシン」ヲ加フルモ潤濁ヲ呈セズ、時ニ只種々メテ僅カニ潤濁ヲ起スノミ。

(京都府醫大、飯塚内科、柳下誠抄)

結核海猿ニ對シ菌ト同時ニ注射セラレタル馬血清ノ作用

Paul Courmont et H. Gardère : Action, Sur la tuber-

culose du cobaye, du sérum de cheval injecté en même temps que les bacilles. (C. R. de la Soc. de biol., 1935, T. CXVIII. p. 1438, No. 14.)

著者等ハ健康海猿ニ強毒結核菌接種ト同時ニ新鮮ナル馬血清ヲ注射シ結核感染進行ニ如何ナル影響ヲ及ボスカヲ檢セリ、即チ海猿ニ人結核菌ト馬血清トヲ混合注射セルニ該海猿ハスベテ結核感染ヲ見タリ、人結核菌ト馬血清トヲ混合スル事ナク海猿ニソレゾレ場所ヲ異ニシテ注射セルニ該海猿ハ何レモ淋巴腺ノ乾酪變性及ビ内臟全體ノ結核侵蝕ヲ見タリ。

(京都府醫大、飯塚内科、柳下誠抄)

消化管ヨリ接種セル「BCG ワクチン」ニヨル海猿ノ結核豫防及ビ治療の研究

I. Balteanu, A. Toma et Ana Garaguli : Essais de vaccination préventive et Curatre du Cobaye a l'aide du vaccin BCG administré par voié digestive. (C. R. de la Soc. de biol. 1935, T. CXVIII, p. 1461. No. 14.)

著者等ハ海猿ニ消化管ヨリ「BCG ワクチン」ヲ注入シ結核ノ豫防及ビ治療效果如何ヲ驗セリ、即チ

- 1) 「BCG ワクチン」ノ只 1 回及ビ數回ノ經口接種ハ結核感染ニ對シ明ラカナル抵抗ヲ與フルヲ知ル。
- 2) 結核菌ノ皮下注射ヲ行ヒ、次テ菌ノ經口接種ヲ行フモ何等感染ニ對スル抵抗ヲ示サズ。
- 3) 既ニ經口接種ヲ受ケタル海猿及ビ毒力菌ヲ接種シ後「BCG ワクチン」ノ新ラシキ經口接種ヲ受ケタル海猿ハ何レモ、何ラ豫防接種ヲ受ケザルモノト同様ニシテ結核ニ對シ特ニ抵抗大ナラズ。

(京都府醫大、飯塚内科、柳下誠抄)

BCG ノ淋巴腺内注射ニヨル海猿局所免疫ノ研究

I. Balteanu A. Toma et Ana Garaguli : Essais d'immunisation locale des Cobayes par injections intraganglionnaires de BCG. (C. R. de la Soc. de biol., 1935, T. CXVIII, p. 1464. No. 14.)

著者等ハ海猿ノ胸骨附近ノ頸部淋巴腺ニ BCG ヲ注入シ時日ヲ經テ毒力菌ヲ該淋巴腺中ニ注射シテ經過ヲ觀察セリ、BCG ヲ以テ 2 ヶ月前豫メ淋巴腺ニ接種セル海猿ニアリテハ局所ノ抵抗ハ何ラ變化ナク接種ヲウケザル對照ト同様淋巴腺ハ剖見ニヨリ廣汎ナル乾酪變性ヲ呈セリ、反之全身ノ抵抗ハ接種海猿ハ非接種海猿ニ比シ強ク内臟ノ變化少ク 1 例ニアリテハ何ラ内臟器關ノ侵蝕ヲウケザリキ、BCG 接種海猿ノ局所

接種淋巴腺ハ皮下接種海猿淋巴腺ニ比シ毒力菌ノ侵入ニ對シ有力ナル抵抗アリトハ思ハレズ。

(京都府醫大、飯塚内科、柳下誠抄)

再感染結核菌ノ運命ニツキテ

I. Balteanu. A. Toma et Ana Garaguli: Sur le Sort des bacilles tuberculeux de réinfection. (C. R. de la Soc. de biol., 1935, T. CXVIII. p. 1467, No. 14.)

著者ハ既ニ結核ニ感染セル動物(海猿)ニ注入サレタル結核菌ノ運命ニツキ研究セリ。即チ結核海猿ニ再感染シメタル結核菌ハ既存傳染ニ依テ殺戮セラレズト、結核菌ヲ結核海猿ノ淋巴腺内ニ注入スルモ該淋巴腺中ノミニトママル事ナク海猿ノ全身ノ器關ヘ持運パレルナリト。

(京都府醫大、飯塚内科、柳下誠抄)

鳥類結核菌ノ分離及ビ血清學的特性ニ就テ

W. Schaefer: La dissociation et la spécificité Sérologique des bacilles de la tuberculose aviaire. (C. R. des Séances de la Soc. de Biol., Tome CXIX. No. 16. p. 59. 1935.)

デアィアンス、グリフィス、ウイルソン氏等ハ各種抗酸性菌「アンチゲン」ノ差異ヲ述ベタルモ、他ノ人等ハ全ク差異ノ如何ヲ述ブル事能ハザリキ。

著者ハ鳥類結核菌ヲ用ヒ、特異「アンチゲン」ノ存在ヲ檢セント企テタリ、即チ鳥類結核菌S及ビRヲ「エムルジヨン」トシ、コレニヨリ兎ヲ免疫シ、溶血反應ニヨリ「アンチゲン」ノ存在ヲ實驗セリ、S變形菌ノ注射ニヨリ得タル抗血清ハ全抗酸性菌ノ「アルコールエツキス」ニ作用スル抗體ヲ有スル外ニ鳥類結核菌ニ作用スル特異抗體ヲ有ス。

R變形菌ノ抗血清ハ鳥類結核菌抗體ニ特異性ニアラズシテ只全抗酸性菌群ニ共通セル抗體ヲ有スルヲ知リタリ。(京都府醫大、飯塚内科、柳下誠抄)

實驗的海猿結核ノ發育竝ビニ BCG ニヨリ免疫サレタル動物ノ結核疾患ノ抵抗ニ及ボス短波長放射ノ影響

J. Beerens et L. Remouchamps: Action des radiations à ondes Courtes Sur. l'évolution de la Tuberculose expérimentale du Cobaye et Sur la résistance à cette affection des animaux immunisés par le BCG. (C. R. des Séan. de la Soc. de Biol. T. CXIX. No. 16. p. 85. 1935.)

著者ハ海猿ノ實驗的結核及ビ BCG ニヨリ免疫サレ

タル結核感染動物ノ抵抗ニ短波長放射ガ如何ナル影響ヲ及ボスカヲ檢シテ結果ヲ得タリ。

實驗動物ノ全例ニ於テ放射ハ直腸檢温 $0.5 \rightarrow 1^\circ$ ノ體温上昇ヲ招來スルヲ觀タリ。波長 5 米ノ放射ニヨリテハ實驗的的海猿結核感染發育ニハ何等影響ヲ見ザリシト。BCG 接種動物ニ放射セルモノハ、放射セザル對照例ト同シク局所反應及ビ淋巴腺腫脹ヲ見タルノミナリシト。即チ本實驗ニ於テ短波放射ハ動物ノ抵抗ニハ何等ノ影響ヲ來サザリキ。

(京都府醫大、飯塚内科、柳下誠抄)

牛型結核菌ノ變型菌 R 及ビ S ノ單一細菌接種ニヨル海猿ノ結核感染

Konrad E. Birkhang: Infection tuberculeuse du cobaye inoculé avec une seule cellule des variétés R et S. du bacille tuberculeux bovin. (C. R. des Séances de la Soc. de Biol., Tome CXIX. No. 17. p. 156. 1935.)

著者ハ Laszlo Wamoscker 氏ノ助力ニヨリ Vallée 牛型菌ノ R 及ビ S 變型菌ニツキ Péterfi 氏法ニヨリ只一個ノ結核菌ヲ分離シ健康海猿(24 匹、210—340 gr)ニ接種セルニ該海猿ノ結核感染ヲ證明シ得タリ、而モ海猿ニ R 及ビ S 變型菌ノ一方ノミニ菌ヲ接種セルニ、兩變型菌ノ互ニ移リ變リユク事(R 及 S)ヲモ證明シ得タリ。

(京都府醫大、飯塚内科、柳下誠抄)

結核婦人ノ乳及ビ初乳中ノコッホ菌ノ研究

Jan Petresco: Recherches du bacille de Koch dans le lait et le colostrum des femmes tuberculeuses. (C. R. des Séances de la Soc. de Biol., Tome CXIX. No. 17. p. 165. 1935.)

著者ハ乳房ノ結核性侵蝕ナキ肺結核患者 39 人ノ婦人ニツキ、初乳及ビ母乳ヲ得、コレヲ檢鏡及ビ Löwenstein ノ培養基竝ビニ海猿ニ接種試驗ヲ行ヘリ、試驗ノ結果チール、ニルゼンノ染色標本及ビ培養ハ陰性ナリキ、海猿接種試驗亦陰性ナリキ、以上ノ結果ハ結核婦人ノ初乳、母乳中ニハコッホ菌ヲ含ム事稀ナルヲ意味スルモノナリ、乳兒ノ結核感染ハ母乳、初乳ニヨル感染ニアラズシテ母體ヨリノ呼吸結核菌小滴ノ直接消化管感染ト考ヘ得ラル、ナリ。

(京都府醫大、飯塚内科、柳下誠抄)

鳥類結核菌ノ血清診斷ノ海猿ヨリ分離シ得タル四種ノ鳥類結核菌鑑別

W. Schaefer : Le Sérodiagnosti: du bacille de la tuberculose aviaire. Identification de quatre Souche aviaires isolées de l'organisme du cobaye. (C. R. des Séances de la Soc. de Biol., CXIX. No. 17. P. 169, 1935.)

著者ハ海猿ヨリ分離セル鳥類結核菌ノ四種類(632, An, Ra, C.)ノ各特異性「アンチゲン」ノ存在ヲ溶血反應ニヨリ決定セリ。

著者ノ實驗ニヨレバ鳥類結核菌ノ「アンチゲン」ノ特異性ハ各個ノ病理學的性質ニヨツテ決定サレルモノニアラズ、即チ鳥類結核菌ノ或種ノモノハ動物ニ對シ無毒ナルニカハラズ他ノ有毒性菌ト同様ニ各個特異性「アンチゲン」ヲ有スルモノナリ。

(京都府醫大、飯塚内科、柳下誠抄)

卵ニヨル結核抗原原ニ就テ

Alexander Besredka : De l'antigène tuberculeux laënf. (C. R. des Sean. de Soc. de Biol. T. CXIX. No. 18, p. 252 1935.)

著者ハ 20 年前曹達中ニ溶解セシメタル卵黄ヨリ作レル培養液ヲ發表セリ。該培養液ハ數多ノ病原體ヲ培養シ得、結核菌ノ培養亦可能ニシテ 45 日後豐富ナル培養ヲ得タリ、カカル培養液ノ自家分解液ハ結核血清ノ存在ノ下ニ於テハ「アレキシン」ヲ固定シ、耐熱性ニシテ結核海猿ニ對シ毒力頗ル微弱ナリ。

(京都府醫大、飯塚内科、柳下誠抄)

結核菌血症及ビ腦脊髓液結核菌症ニ就テ

A. Puca : Bacillémie et bacillorachie tuberculeux. (C. R. des Séances de la Soc. de Biol., T. CXIX. No. 18. p. 258. 1935.)

著者ハ肺結核患者ニ於テ結核菌血症陰性ノ者ニ腦脊髓液中ニ結核菌ノ存在ヲ證明セントシテ實驗ヲス、メタリ、結核菌血症ハ Löwenstein 氏培養法ニヨリ證明シ得タルモ、腰椎穿刺ニ依リ腦脊髓液ヲ採集シ海猿、及ビ培養試験ヲ行ヒタルニ並レモ陰性ナリキ。

(京都府醫大、飯塚内科、柳下誠抄)

牛類ニオケル結核菌症及ビ結核發生

B. Ananiadés : Tuberculination et bacillémie tuberculeuse chez les bovidés. (C. R. des Séances de la Soc. de Biol., CXIX. No. 18. p. 265. 1935.)

著者ハ廣汎ニワタリ結核性侵蝕ノアル自然結核牛ノ血液ヲレーウエンスタイン氏法ニヨリ培養セルニ陰性ノ結果ヲ得タリ、尙結核牛ノ皮内、及ビ皮下ニ「ツベ

ルクリン」ヲ注射シシヨツクラ惹起セシメタルモ、該結核牛ノ血液培養及ビ海猿接種亦陰性ナリキ、即チ體內コソホ菌ヲ移動セシメ、血中ニ誘出スル事ハ不能ニ終リタリト。(京都府醫大、飯塚内科、柳下誠抄)

海猿ノ特異性結核解剖臨牀型ノ頻度

A. Saenz, L. Costil et M. Sadettin : Fréquence et formes Anatomocliniques de la tuberculose spontanée du Cobaye. (C. R. des Séances de la Soc. de Biol., T. CXIX. No. 18. p. 266. 1935.)

著者等ハ健康海猿ヲ結核海猿ト同一箱内ニ飼育シ特異性結核ヲ起サシメ、コレヲ解剖臨牀ニ分類セリ、即チ長期(1—30 ヶ月)結核海猿ト同一箱内ニ飼養スレバ結核ニ罹患シ1年ヨリ2年半迄ノ飼養ニアリテハ 36%ノ罹患率ヲ見ル。シカモ空氣ニヨルモノ最モ屢ナリ。サレド同一箱内飼養 6 ヶ月以内ニテハ特異性結核ヲ見ズト。

(京都府醫大、飯塚内科、柳下誠抄)

「パラフィン」中ニ包裡セラレ殺菌サレタル Koch 菌ノ注射ニヨル實驗動物ノ比較的免疫ノ特性ニツキテ

E. Couland : Caractères de l'immunité relative obtenue chez les animaux de laboratoire par injection de bacilles de Koch Tués, enrobés dans la paraffine. (C. R. de Soc. de Biol. T. CXIX. No. 20. p. 463. 1935.)

著者ハ煮沸溶解セル「パラフィン」中ニ包裡セル結核菌ヲ以テ實驗動物(家兎及ビ海猿)ニ強キ「アレルギー」ノ状態ヲ得サシメタリ。カクシテ著者ハコレヲ動物體ニ注射シ該動物ニ比較的免疫ヲ得サシメ、結核感染度ヲ弱ラシメ且ツ遅延セシメ得タリ、サレド劇シキ感染ニタイシテハ絶對ノ免疫ハコレヲ得ルコト不能ナリキ。(京都府醫大、飯塚内科、柳下誠抄)

BCG ノ R, S 變種ノ經口接種海猿ニ於ケル毒性再感染ニタイスル抵抗及ビ「ツベクルリン」過敏性

Konrad-E. Birkhang : Allergie tuberculique et résistance à une surinfection virulente chez les Cobayes inoculés per os avec les variétés Ret S. du BCG. (C. R. de Soc. de Biol. T. CXIX. No. 20. p. 472, 1935.)

著者ハ家兎ニ BCG ノ R 及ビ S ノ經口接種ヲ行ヒ「ツベクルリン」過敏性及ビ毒力菌ノ再感染ニ對スルハ抵

抗ニ就テ檢セリ。即チ變種 Rニ比シ S 變種ハ「ツベルクリンアレルギー」強陽性ニシテ結核菌ノ毒性再感染ニ對シ大ナル抵抗ヲ示セリ、反之 Rハ何等「ツベルクリン」反應ヲ呈セズ、結核菌ノ再感染ニ對シ抵抗弱ク病竈著明ニシテ且ツ汎發性ノ像ヲ呈セリ。

(京都府醫塚大、飯塚内科、柳下誠抄)

外科的結核症ニ於ケル Besredka ノ新「アンチゲン」ヲ以テセル結合反應成績

Kurt Meyer et Hugèrette Froyez-Roederer : Résultats de la réaction de fixation avec e nuovel anti-gène Besredka dans les tuberculoses Chirurgicals. (C. R. de Soc. de Biol., 1935, T. CXIX. p. 478, No. 20.)

著者等ハ Besredka ノ新「アンチゲン」ヲ用ヒ外科的結核患者ニオケル結合反應ノ陽性如何ヲ檢査セリ、即チ 250 名中 123 名ハ確實ニ骨性結核ナリシ者ナリ。コノ 123 名ノ中 88 名 (71.5%) ハ本反應陽性ニシテ 8 名 (6.5%) ハ疑ガハシク、27 名 (22%) ハ陰性ナリキ。125 名ノ非結核患者ノ血清ニツキテ見ルニ 2 名ハ疑ガハシク、4 名 (3.5%) ハ陽性ナリキ。以上ノ成績ニヨレバ、外見上健康ナレド、潜伏性結核ニオイテモ亦陽性ヲアラハス事ヲ考フル時本結合反應ハ特異性ノモノナリト考ヘ得ラル、ナリ。

(京都府醫大、飯塚内科、柳下誠抄)

ニツノ異ナレル「アンチゲン」(Besredka ノ卵黃「アンチゲン」ト Boquet et Nègre ノ「メチールアンチゲン」)ヲ以テセル結核ノ結合反應ノ成績比較

Robert Wahl et Pierre Laval : Résultats Comparés des réactions de fixation pour la tuberculose avec deux antigenes différents (antigène a loéuf de Besredka et antigène méthylique de Boquet et Nègre) (C. R. de la Soc. de Biol., 1935, T. CXIX, p. 483, No. 20.)

著者等ハ 101 例ノ肺結核患者血清ニツキテ Besredka ノ卵黃「アンチゲン」及ビ Boquet et Nègre ノ「メチールアンチゲン」ヲ以テ本結合反應ヲ比較檢査セリ。即チ 101 例中「メチールアンチゲン」ヲ以テセル者 63 名 (64%)、卵黃新「アンチゲン」ヲ以テセル者 98 名 (97%) 陽性ヲ得タリ。即チ Besredka ノ「アンチゲン」ヲ以テセル例ハ陽性率高キヲ知レリ、Besredka ノ「アンチゲン」ニオイテハ肺結核患者ハ常ニ陽性ニシテ而

モ結核症ノ進行性ノモノニテハ、ソノ反應頗ル強キヲ知レリ。(京都府醫大、飯塚内科、柳下誠抄)

實驗的結核ノ經過中ニ於ケル「グリココール」排出曲線及ビ血清殘餘窒素含量

F. Pezzangora : Teneur en azote résiduel des sérums et Courbes d'élimination de glycolle an Cours des tuberculoses expérimentales. (C. R. de Soc. de Biol. T. CXIX. No. 20. p. 513. 1935.)

著者ハ家兔ヲ用ヒ何等處置ヲ講ゼザル對照例及ビ牛型菌 B. Vallée. 鳥型菌 Ninni, BCG 菌ヲ何レモ靜脈内ヨリ接種シテ、實驗的結核ヲ生センメ是等ノ家兔ニ「グリココール」ヲ負荷シ血清殘餘窒素ノ消長ヲ檢セリ。對照例ノ殘餘窒素ハ一時減少シ次第ニ舊値ニ復歸セリ、實驗結核家兔ニテハ「グリココール」ノ注射後殘餘窒素上昇シ後次第ニ下降ス、BCG. 注射例ニアリテハ大ナル變化ヲ見ザリキ、依之觀ニ血液殘餘窒素調節ハ必ズシモ肝臟ニノミ依ルモノニアラザルヲ知ル。

(京都府醫大、飯塚内科、柳下誠抄)

皮膚結核及ビ結核疹ニ於ケル血液ヲ一群ノ海狸ニ移植セル結果ニツキテ

J. Gaté, P.-J. Michel et P. Dugois : Résultats fournis par les inoculations de sang en série au Cobaye dans la tuberculose cutanée et les tuberculides. (C. R. de Soc. de Biol. No. 21. T. CXIX. 1935. p. 565.)

著者等ハ皮膚結核症 7 例ト結核疹 14 例ノ血液ヲ海狸ニ移植セルニ中 3 例ニ於テ結核感染ノ陽性ヲ見タリ、3 例中 2 例ハ結節性狼瘡及ビ硬結性バザン氏紅斑ニシテ他ノ 1 例ハ發疹性狼瘡ナリキ。

(京都府醫大、飯塚内科、柳下誠抄)

栗鼠(Citellus Citellus)ニ於ケル實驗的結核ノ研究

D. Combiesco et V. Botez : Recherches sur la tuberculose expérimentale Chez le spermophile (Citellus citellus). (C. R. de Soc. de Biologie No. 21. T. CXIX. 1935 p. 621.)

著者ハ栗鼠(Citellus citellus)ニ人結核菌、牛結核菌鳥結核菌ヲ皮下、腹腔内、呼吸器道内ヨリ移植セリ、何レモ豫期ノ如ク結核感染ヲナシ得。肺、淋巴腺、肝臟、脾臟、大網膜、腎臟等總ベテ結核病竈ヲ見タリ。動物ノ死後培養ヲ試ミジニ皆陽性ノ成績ヲ得タリ。

(京都府醫大、飯塚内科、柳下誠抄)

栗鼠 Citellus Citellus)ニ於ケル實驗的結核ノ組

組織的研究

D. Combiesco et V. Botez : Etude histologique de la tuberculose expérimentale chez le spermophile (*Citellus citellus*). (C. R. de Soc. de Biol. No. 21. 1935. Tome CXIX. p. 624.)

著者等ハ栗鼠ニ實驗的ニ結核症ヲ生セシメ肉眼的ノ所見ニツイテハ既ニ述ベタリ。次テ肝臓が最強度ニ侵サレタルヲ知り、ソノ檢鏡的所見ヲ述ベ更ニ他臓器ノソレヲ併セ報告セリ。即チ肝臓ハ外見上枯葉ノ如キ色調ヲ呈セリ、該標本ヲ見ルニ多數ノ結核菌ヲ證ス。結核濾胞及ビ其周圍ニハ血管ヲ見ル、又淋巴球ト内被細胞ヲ認メタルモ、巨大細胞ハ缺除ス、脾臓ハ肉眼的ニハ正常ナルモ、檢鏡的ニハ結核菌ヲ證シ、Langhans 巨大細胞ト又 Sternberg 氏細胞ヲ見ル、副腎ニテハ淋巴球ヲ見ル、血液標本ニテハ中ニ、結核菌ヲ證シ而モ内被細胞ニヨリ包裡サレタルヲ知ル、他ノ臓器ニアリテハ特異ノ所見ヲ認メズ。

(京都府醫大、飯塚内科、柳下誠抄)

結核菌 R 及 ビ S 變種ニヨル「メチレン」青ノ還元現象

Thorstein Guthe : Phénomène de réduction du bleu de méthylène par les variétés Ret S des bacilles tuberculeux. (C. R. de Soc. de Biol. T. CXIX. No. 22. p. 694. 1935.)

著者ハ結核菌ノ R 及 ビ S 變種ニヨル「メチレン」青ノ還元作用ヲ檢シテノ成績ヲ得タリ、即チ鳥類及ビ哺乳類結核菌 R 及 ビ S 種ハ「メチレン」青ヲ還元スル能力ヲ有ス。而シテ哺乳類 S 種ハ鳥類結核菌ニ比シ量的ニモ質的ニモ還元能力甚ダシク而モ速カナリ。

(京都府醫大、飯塚内科、柳下誠抄)

「フォルマリン」加結核菌ニヨリ結核菌ニ對スル海狸ノ免疫ノ研究

E. et M.-T. Lagrange : Essais d'immunisation du Cobaye Contre le bacille tuberculeux au moyen de bacilles formolés. (C. R. de Soc. de Biol. T. CXIX. No. 22, p. 701. 1935.)

著者ハ「フォルマリン」加結核菌ヲ海狸ニ注射シ又結核感染海狸ニ此注射ヲ續行シ次ノ如キ成績ヲ得タリ。即チ「フォルマリン」加結核菌ノ注射ヲ受ケザル對照例ハ 4 ヶ月以内ニテ死セルニ比シ本注射ヲ受ケタルモノハ結核感染量ヨリモ更ニ大量ノ菌ヲ以テシテモ 10 ヶ月モヨク生命ヲ保テリ。

(京都府醫大、飯塚内科、柳下誠抄)

結核性腦膜炎ヨリ分離セル牛型菌ノ家兎及ビ犢ニ對スル強毒性ニ就テ

A. Saenz : Haute virulence, pour le lapin et le veau, d'une Souche de bacilles bovins isolée de l'organisme d'un enfant mort de méningite tuberculeuse. (C. R. de Soc. de Biol. T. CXIX. No. 22, p. 722 1935.)

著者ハ腦膜炎ニテ死セル患兒ノ身體ヨリ分離セル牛型菌ヲ用ヒ動物ニ對スル毒力ヲ檢セリ、分離當時ノモノハ牛型菌特有ノ「ヂスゴニーク」ヲ呈セリ、コレヲ「グリセリン」加馬鈴薯培養基ニ世代ヲ重ネテ培養シ「ユーゴニーク」型ニ變化セルモノハ海狸、家兎、犢ニ對シ毒力旺盛ニシテ汎發性ノ結核症ヲ生セシムト。

(京都府醫大、飯塚内科、柳下誠抄)

「ヂスゴニーク」牛型結核菌ヨリ「ユーゴニーク」R 型種ノ分離

R. Laporte : Dissociation en type R eugonique des souches de bacilles tuberculeux bovins dysgoniques. (C. R. de Soc. de Biol. T. CXIX. No. 22. p. 725, 1935.)

著者ハ「ヂスゴニーク」牛型結核菌ノ培養ニアタリニツノ優秀ナル固形培養基ヲ用ヒタリ、此培養基ニヨリ Besredka ノ培養基ニオケルガ如ク菌ノ固定ノ性質ハ保存サレテユクモノナリ、即チ一ツハ卵黃ト血清ヲ使用シ他ノ一ツハ Lumière 氏ノ培養基ヲ改良セルモノニシテ牛ノ肝臓片ヲ用ヒ菌ノ保存ニ使用スルモノナリ、カクシテ著者ハコレヲ、培養基ニヨリ「ヂスゴニーク」牛型結核菌ヨリ「ユーゴニーク」型 R 種ヲ分離スルニ成功セリ。

(京都府醫大、飯塚内科、柳下誠抄)

健康家兎及ビ結核又ハ BCG 菌ヲ接種セル家兎ニ於ケル「グリココール」排泄曲線及ビ殘餘窒素代謝ニ及ボス「ツベルクリン」反應ノ影響

F. Pezzangora : Influence de la réaction tuberculinique sur le Métabolisme de l'azote résiduel et la Courbe d'élimination du glyco-colle Chez des lapins sains ou Tuberculeux, ou inoculés avec le bacille BCG. (C. R. de Soc. de Biol. T. CXIX, No. 22. p. 727. 1935.)

著者ハ正常家兎ニ「ツベルクリン」ヲ注射シタルモ殘餘窒素ハ何等變化ヲ來サザリキ。接種セルモノニアリテモ同様ニ殘餘窒素ニハ何等變化ヲ呈セザリキ。

反之牛型結核菌又ハ鳥型結核菌ヲ靜脈内ニ1ヶ月ニワタリ注射セル家兎ニ「ツベルクリン」ヲ注射時トハ殘餘窒素上昇シ24時間ニシテ最大ニ達シ48時間後舊値ニ復ス。尙「グリココール」ヲ靜脈内ニ注射セバ30分後ニシテ殘餘窒素著シク上昇ス、而モ「ツベルクリン」ヲ注射セザル結核家兎ニ見ラル、ヨリモ尙殘餘窒素量ハ更ニ高キヲ知ル。

(京都府醫大、飯塚内科、柳下誠抄)

腸結核ト貧血

(今村荒男：日本消化機病學會雜誌、第34卷、8號、583頁、昭和10年8月)

腸結核患者ニハ貧血高度ナル傾向アルモ著者等ノ取扱フ腸結核患者ノ多クハ重症肺結核患者ナル故ニ腸結核ノ貧血ガ腸結核ニ基クカ或ハ肺結核ニ基クカラ區分スル能ハズ、他面ニ於テ腸結核アルモ貧血ノ比較的輕度ノ者ガアリ、又肺結核ガ重症デモ貧血ノ輕度ナル者ガアリ、逆ニ肺結核ガ輕症デモ貧血ガ著シイ者ガアル。

斯カル故ニ結核患者ノ貧血ハ結核病變ノ進展以外ニ他ノ疾病ノ合併ヲ考ヘナクテハナラス、合併症ヲ治療シ得ルモノハ出來ルダケ早ク適當ノ療法ヲ為スベキテアル、貧血ガ合併症ニ由ルニ非ザル時ハ特別ノ病型テアル肺結核ノ貧血型ノ如キ萎黃症又ハ之ニ類似ノ疾患テアルカ或ハ特別ニ造血臟器ガ結核菌或ハ其毒素ニ對シテ抵抗弱キ爲ナルカ等ヲ考フベキテアル。更ニ又肺結核以外ノ結核性疾患例ハ腸結核、淋巴腺結核等テ臨牀的ニ知り得ナイ合併症ヲモ考ヘナクテハナラス。

斯ノ如ク事態ガ複雑テアルガ結核患者ニ貧血ガアレバ肺結核、腸結核其他ノ結核疾患ニ對スル治療ノ他ニ非結核性疾患ノ合併アレバ之ヲ治療ス、次ニ萎黃症ノ如ク特別ニ造血臟器ニ機能障礙アレバ之レニ對シテ適策ヲ講ズル。

著者ハ腸結核ノ貧血ニ對スルノミナラズ實ニ結核貧血ニ對シ、且又貧血ノミナラズ結核病變ニ對シテ直接或ハ間接ニ影響アル治療法ヲ述ブ。其法(甲)肝油「トマト」療法。(乙)銅加鐵劑靜脈内注射療法。(丙)「ピリルビン」靜脈内注射。(丁)人血筋肉内注射法。ノ四項ニ分タル。就中著者ハ肝油「トマト」療法ノ如キ高「ビタミン」食餌ヲ一般的ニ出來ルダケ推奨スベシトナス。著者ノ教室ニ於イテ海猿ニ「ビタミン」C 缺乏飼養ヲ行ヒ貧血ヲ起シ、「トマト」汁ヲ與フレバ血

液像ノ恢復ヲ見、腸結核、肺結核患者ニハ肝油15瓦、「トマト」汁90瓦ヲ1日3回宛内用セシメ、一般症狀ノ著明ナル輕快、特ニ解熱ニ向ヘルモノ多ク、體重增加ヲ來セルモノ相當數アルヲ認メタ。銅加鐵劑靜脈内注射ハ經口的ニ鐵劑ヲ與エ得ナイ場合特ニ鐵突療法ノ行ヒ得ナイ場合ニ試ミル價値ガアル。「ピリルビン」靜脈内注射ハ未ダ多キヲ望ム能ハズ、人血筋肉注射ハ重症肺結核患者ニモ效果アル場合ガアル(注射方法ハ10%「チトラート」1:血液5-9ノ割ニ混シ、血液10-20ccmヲ臂筋内又ハ大腿内ニ左右交互ニ注射シ、該部ニ「マッサージ」ヲ行ヒタル後温濕布ヲ施ス、同型又ハO型ヲ選ビ、毎日又ハ大部分ハ隔日ニ行フ)。腸結核ニモ試ム可キ價値ガアル。更ニ肺結核ノ輕症或ハ中等症ナル者ニ試ムレバ治療ヲ促進スル可能性ガ多イ。從來ノ療法ニ是等ノ療法特ニ高「ビタミン」食餌タル肝油「トマト」療法及人血注射療法等ヲ合セ用レバ勿論根治療法テハナイガ肺結核患者ノ重症者ニモ經過ヲ良好ナラシムル場合ガ多クナツタト考ヘラルト。(名大、岡田抄)

Biscoclairin 系 Alkaloid 類ノ實驗的結核ニ及ボス影響並ニ結核患者ノ血清診斷ニ就テ

(東京高等齒科醫學校 長谷川秀治：昭和10年11月13日、東京市療養所抄讀會)

余ハ東京高等齒科醫學校微生物學教室ニ於テ共同研究者ト共ニナシツ、アル研究ニ就テ前記表題ノモトニ述ベントス。

結核ノ化學療法ハ結核菌ガ類脂體ノ皮膜ニヨリテ包マレテキルタメニ非常ニ困難ナリト信セラレ居ルモ、近時、試験管ニ於ケル殺菌力アルモノヲ選ビ次テ實驗的結核ニ應用シテ先ヅ結核形成阻止作用アル物質ヲ見出シ、以テ結核ノ化學療法ノ目的ヲ達セントスル研究續出セリ。就中、Hesse 氏ハ約四千種ノ物質ニ就テ、實驗ノ結果、Safranin, Tannin, heliotrop ニ於テ家兎ノ實驗的結核ノ進行ヲ阻止スル事實ヲ認メタリ。又本年9月同氏ハ Silicylricinolsäureäthylester ヲ結核ニテ免疫セル家兎ニ長期間ニモ充分ニ投與スルトキハ結核病竈ニ於ケル Bindegewebe ノ新生ト Abkapselung トヲ將來スルコトヲ實驗セリ。我國ニ於テハ傳研佐藤教授ノ研究室ニ於テ、青木、黒屋、白井ノ諸氏ハ phenylhydrazin ヲ初メトシテ種々ノ Hydrazin 誘導體ガ海猿ノ實驗的結核ニ於テ結核形成阻止作用アル事實ヲ認メタリ。佐藤、安藤兩氏ハ Nil-blue、

Indigo-disulphonic potassium, Neutral red, Safranin, 等ノ色素が結核形成阻止アル事ヲ認め、武田、安藤、畑、三輪氏等ハ近時、結核「ワクチン」ノ有效成分トオホソキ物質ヲ検索シテ之ヲ報告セリ。余等ハ7、8年前ヨリ主トシテ Biscoclairin 系 alkaloid 類ノ海狸ノ實驗的結核ニ對スル影響ヲ實驗シツ、アリ。今回ハ就中、Trilobin, Isotrilobin, Menisarin, Tetrandrin, Cepharanthin, 及ビ Trilobin ノ分解成績體ナル Desmethyiltrilobin, Trilobinmethyldimethin, Aminoaldehyd, Methoxy-diphenyläther-dicarbonsäure, 又合成物質トシテハ Diphenylendioxyd, Ditolylendioxyd 等ヲ用ヒタル實驗ニ就テ報告セントスルモノナリ。Cepharanthin ヲ除ク他ノ物質ノ作用ニ就テハ來ル 11 月 16 日發行ノ東京醫事新誌上ニ於テソノ大要ヲ發表スル豫定ナリ。

次ニ Biscoclairin 系 Alkaloid トハ 2 個ノ Cocclairin 型 Alkaloid が「エーテル」型酸素ヲ以テ 1 ケ所乃至數ケ所ニテ連結サレタル構造ヲ有スル非常ニ分子ノ大ナル Alkaloid ニシテ從來ノ Alkaloid 化學ニ於テハ未ダ嘗テ見ザルモノナリ。而シテ特殊ナル新一群 Diphenyläthyl ヲ構成スル橋狀酸素ヲソノ分子中ニ含有スルモノニシテ、構造ハ近藤東大教授及ビソノ門下生ニヨリテ初メテ解決サレ Alkaloid 化學ニ於テハ極メテ興味アル物質ナリ。而モ、此ノ屬ノ Alkaloid ハ特ニ邦産防己科植物ヨリ多數出現スルコトモ明ニセラレ現今マテ約十數種發見サル、ニ至レリ。即チ Trilobin, Isotrilobin, Menisarin, Normenisarin, Cepharanthin, Tetrandrin, Phäanthin, Isotetrandrin, Trilobamin, Oxyacanthin, Berbamin, Dauricin 等ノ Alkaloid 之ナリ。是等ノ物質ノ化學的性質ニ關シテハ共同研究、富田等ノ藥學雜誌ノ報告ニ譲リ本日ハ特ニ、Trilobin 系 Alkaloid, Tetrandrin, 及ビ Cepharanthin 等ニ就テソノ實驗的結核ニ及ボス影響ニ就テ述ベントス。

コノ三者中ニテ Trilobin ハ Diphenylendioxyd 核ヲ有シ、橋狀酸素ヲ 3 個ソノ構造中ニ含有スルニ反シ、Tetrandrin ハ Diphenylendioxyd 核ヲ有セズ、橋狀酸素 2 個ヲ有ス。Cepharanthin ハ構造未決定ナルモ橋狀酸素 3 個ヲ有スルコトハ明ナリ。而シテ Diphenylendioxyd 核ノ存否ニ就テハ未決ノ問題ニ屬ス。

次ニ實驗的結核ノ實驗方法ニ就テ述ベン。

供試動物ハ常ニ重量、300 瓦前後ノ雄ノ海狸ヲ用ヒタ

リ。菌株ハ上池株 Frankfurt 株等ノ強毒人型結核菌ノ 16 日乃至 20 日間培養ヲ用ヒ、所要菌量が生理的食鹽水 0.5cc 中ニ含有サル、如クニ菌浮游液ヲ作り、此ヲ海狸ノ右側腹壁ノ皮下ニ注射シ罹患セシメタリ。藥品ノ效力ヲ比較スルタメニ大體、菌量ハ 1/10 疋注射セリ。但シ實驗ニヨリテハ菌量ヲ増減セリ。藥品ノ注射ハ菌液注射後 1 週日以内ニ於テセリ。但シ菌液注射後、數 10 日ヲ經テ藥液注射セルモノニ就テハ後報ニ譲ル。

實驗成績ノ判定ハ原則トシテ 70 日目ニ解剖シテ對照、實驗各 10 匹宛ノ成績ヲ比較セリ。

比較ノ標準ハ淋巴腺ニテソノ肥大ノ程度ニヨリ、脾臟ニ於テハ重量、及結節ノ多少、肺臟、肝臟ニ於テハ結節ノ數ヲ何レモ肉眼的ニ觀察シテ、是等ヲ比較セリ。上述ノ如クニシテ、種々藥品ノ實驗的結核ノ阻止力ヲ比較セルニ、Cepharanthin 最モ強力ニシテ、Trilobin 之ニ次ギ、Tetrandrin ハ最モ弱シ。Cepharanthin ハ *Stephania cepharantha*, Hayata (タマサキツヅラフヂ)ヨリ、Trilobin ハ *Cocculus trilobus*, Dc (アオツヅラフヂ)及ビ *Cocculus sarmentosus*, Diels (ホウザンツヅラフヂ)ヨリ、Tetrandrin ハ *Stephania tetrandra*, S. Moore (シマハスノハカヅラ)ヨリ取り出サレタル Alkaloid ニシテ Trilobin ニ於テハ注射局所ノ潰瘍、藥品注射ニヨリテ起ル體重ノ減少、等色々不快ナル副作用アルニ反シ Cepharanthin ニテハ注射局所ニ刺戟症狀ナク、體重ノ減少モナク、又 Trilobin ニテハ淋巴腺及肝臟結核ニ對シソノ阻止作用、微々タルニ反シ Cepharanthin ニテハ是等ニ對シテ、極メテ著明ナル阻止作用ヲ呈シタリ。又 Trilobin ニテハ 70 日間ニ 100 疋ヲ注射スルニ相當ノ斃死ヲ免レザルニ Cepharanthin ニ於テハ 168 疋ヲ注射スルモ殆ンド斃死セズ。體重モ對照ト殆ンド變ラザル程度ナリ。Tetrandrin ハ 400 疋、注射ニ於テモ阻止作用殆ンド微弱ナリ。只淋巴腺ニ對シテノミ稍々作用顯著ナルハ興味アル事實ニシテソノ光學的異性體ナル Isotetrandrin トノ作用ヲ後報ニ於テ比較スル豫定ナリ。

Trilobin ノ Isomer ナル Isotrilobin ニ於テハ略々ソノ作用 Trilobin ニ近似シ、Menisarin ハ Trilobin ニ比シテ Methoxyl 基 1 個ヲ多ク有スルソノ Dehydrobase ニシテ、ソノ毒性 Trilobin ヨリ弱ク、結核阻止力モ弱クレドモ尙相當ノ效果ヲ認め。尙 Trilobin ノ分解成績體ナル、Desmethyiltrilobin, Trilobinmethyld-

methin, Trilobinmethylnmethin, 等ニ就テモ實驗セルニ明ニ阻止作用ヲ有シ、Trilobinmethylnmethin ヲ「オゾン」ニテ酸化スルコトニヨリテ生ズル一種ノ Aminoaldehyd が偶然ニモ、猛毒性ヲ有スル事實ヲ認メタリ。尙 Trilobin ヲ分解シテ、ソノ阻止作用ノ本態ガ Diphenylendioxyd 核ヲ含有スル部分ニアリヤ、又ハ此核ヲ含有セザル部分ニアリヤヲ檢索セント欲シ、Diphenylendioxyd ヲ oliv 油又ハ Carbitol ニ溶解シテソノ作用ヲ見又一方、Trilobinmethylnmethin ヲ出發シテ橋狀酸素ヲ只1個ノミ有スル Methoxy-diphenylätherdicarbonsaures Natrium ヲ作り、ソノ水溶液ニ於テ作用ヲ比較セルニ、Diphenylendioxyd 核ニノミ結核形成阻止作用アル事實ヲ認メタリ。從ツテ、Biscoclaurin 系 alkaloid 中、Trilobin ノ阻止作用ハソノ一部ヲ Diphenylendioxyd 核ニ歸スルコトヲ得ルモ、構造未決定ナル Cepharanthin ノ強力ナル阻止作用及ビ Diphenylendioxyd 核ナキ Tetrandrin ノ阻止作用ノ本態ヲ何レニ歸スベキヤハ今後ノ研究ニ待タザル可カラズ。又 Cepharanthin ハ他ノ物質ト異リ試驗管内ニ於テ結核菌ニ對シ殺菌力極メテ微弱ナリ。例ヘバ、Trilobin ニ於テハ結核菌ニ對スル發育阻止力ハ約三萬三千倍、Tetrandrin ニ於テハ約ソノ2分ノ1ノ濃度ニ於テ發揮セラル、モ、(寺尾) Cepharanthin ニ於テハ近々2倍位ノ稀釋度ニ於テ、發育阻止スルニ過ギザルニ、生体内ニ於テハ結核ノ形成ヲ強度ニ阻止スルハ極メテ興味アル事實ニ屬ス。次ニ結核患者ノ血清診斷ニ就テ述ベントス。余ハ先ニ西村ト共ニ Lysolecithin, Digitalin, Digitonin, Convallamarin, Convallarin 等ノ添加培養基ニヨリテ所謂變性結核菌ヲ得ルコトヲ報告セリ(東京醫事新誌2931)ソノ後、東風ト共ニ結核菌ノ平等浮游液(homo-

gene Emulsion) ヲ得テ、之ヲ凝集反應及ビ補體結合反應ニ應用セント欲シ、種々研究ノ結果、稍々満足スベキ結果ニ近ヅキツ、アルタメニ此處ニ述ベントス。最モ優秀ナル Emulsion ハ Convallamarin (Convallaria majalis, L. (スズラン)中ノ配糖體) ヲ用ヒテ培養セル培養菌ニヨリテ得ラレタルモノナリ。方法ハ Roux 氏試驗管ニ楔狀馬鈴薯ヲ入レ基底部ニハ5.0%ノ Glycerin 水ニ Convallamarin ヲ1%ニ溶シタル溶液ヲ入レ結核菌ヲ馬鈴薯ノ斜面ニ塗布シテ培養シ Glycerin 水ヲ時々塗布面ニ浸サシム。培養期間ハ約40日ヨリ60日位迄ノ間ヲ可トス。而シテ培養菌塊ガ泥狀トナリシトキ之ヲ掻キ取り、浮游液トナストキハ均等トナル。尙 Digitonin, Digitalin ニヨリテモ同様ニシテ容易ニ平等液ヲ得。Saponin 及ビソノ他ノ物質ニテモ稍々困難ナルモ可能ナリ。是等ノ平等液ヲ比較スルニ自然凝集ヲ起スモノ等モアリテ、一旦平等ニナリタリト雖モ沈下スルモノアリ。生菌ノマニテハ平等ナルモ煮沸スルトキハ又自然凝集ヲ起スモノアリ。結局生菌ノマ、ニテモ、煮沸シテモ長時間放置スルトモ少シモ變化セズ自然凝集モセザルモノハ Convallamarin ニヨリテ得タル平等浮游液ニシテ主トシテ之ヲ用ヒテ結核患者ノ血清ニ就テ凝集反應及ビ補體結合反應ヲ施行中ニシテ、今日マテノ成績ニテハ結核患者107例中凝集反應80例(75%)陽性ニシテ強キモノハ3200倍ニ達スルモノアリ。補體結合反應ニ於テハ208例中172例(82.6%)陽性ヲ示シ、兩反應ニ於テ同一血清ニテハソノ成績略々平行セリ。尙、菌浮游液ノ改良ニツレテ陽性率、益々高マル傾向ヲ有スルヲ以テ後報ニ於テ詳述セント欲ス。

(自抄)

會報並雜報

○十一月中新入會者

高田 勝美 大牟田市川尻 縣立健康相談所
西川 高德 大阪市北區茶屋町四一 大阪市立
北野健康相談所

坂東 實三 神戸市林田區蓮宮六丁目二八
古川 岩雄 樺太真岡本町三丁目角(本局向)
藤井 靜雄 東京市四谷區舟町四()